令和元年度教育事業「ジュニアチャレンジ淡路島一周」実施報告

1 趣 **旨** 淡路島一周踏破という大きな挑戦を通して、仲間の大切さや協力する ことの重要さを学ぶとともに、人間としての強さやたくましさを育む。

3 募集定員 16名

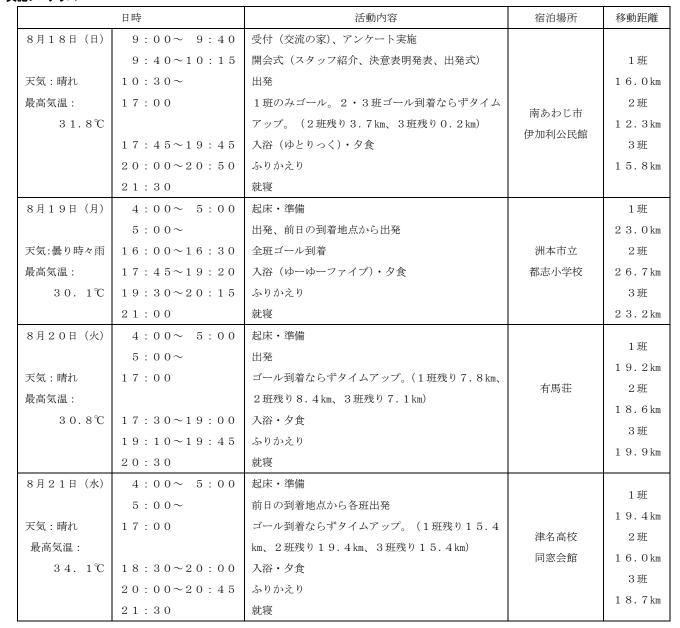
4 参 加 者 21名

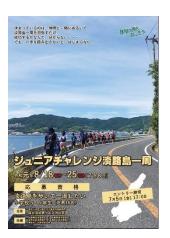
※応募35名 安全管理上、21名に選考し実施

5 参加者内訳 小学 5 年生 1 1 名、 6 年生 1 0 名 (男子 1 3 名、女子 8 名)

※南あわじ市4名、洲本市6名、淡路市2名、兵庫県(淡路島島内を除く)6名、京都府1名、三重県1名、沖縄県1名

6 実施プログラム





		T	<u> </u>	
8月22日(木)	4:00~ 5:00	起床・準備		
	5:00~	各班、前日の到着地点から出発		1 班
	12:00	ゴール到着ならずタイムアップ(1 班残り14.1		15.3km
天気:晴れ		km、2班残り20.5km、3班残り14.1km)	津名高校	2班
最高気温:	13:00	昼食		_
3 2. 3℃	14:00~16:00	ふりかえり	同窓会館	12.9km
	17:00~18:00	入浴(パルシェ香りの湯)		3班
	18:00~20:00	夕食		15.3km
	20:30	就寝		
8月23日(金)	4:00~ 5:00	起床・朝食		a min
	5:00~	各班、前日の到着地点から出発		1班
天気:雨のち曇り	17:00	ゴール到着ならずタイムアップ(1 班残り 9.0 km、	洲本市立	30.1km
最高気温:		2班残り11.7km、3班残り11.3km)		2班
3 1. 4℃	17:45~19:45	入浴(エトワール生石)・夕食	由良公民館	33.8km
	20:00~20:40	全体ミーティング		3班
	21:20	就寝		27.8km
8月24日 (土)	4:00~ 5:00	起床・準備		1 班
	5:00~	出発		31.0km
天気:雨のち曇り	16:30~17:50	全班ゴール到着	国立淡路青少年	2 班
最高気温:	18:00~19:30	夕食・入浴	交流の家	33.7km
27.4℃	21:00	就寝		3 班
				33.3km
8月25日(日)	6:30	起床・準備	/	/
	6:55	朝のつどい		
天気:晴れ	7:50~ 9:30	朝食・退所準備		
最高気温:	10:00~11:30	全体まとめ		
29.3℃	11:40~13:00	昼食・休憩		
	13:00~14:30	報告発表会・閉会式		
		•	-	

[※]最高気温は気象庁発表のデータを記載 (8/18・8/24・8/25: 兵庫県「南淡」、8/20・8/21: 兵庫県「郡家」、8/19・8/22・8/23: 兵庫県「洲本」)

7 プログラム内容

参加者の成長段階に応じた支援ができるよう、7泊8日のプログラムを下記のように大きく5つのステージを設定し、それに基づき運営した。

【第1ステージ:技術習得と目標設定・仲間作り】

8月18日(日):国立淡路青少年交流の家→南あわじ市阿那賀地区(16km)

8月19日(月):南あわじ市阿那賀地区→洲本市五色地区(23km)

「ジュニアチャレンジ淡路島一周」に対する決意表明を行い、チャレンジがスタートした。チャレンジ序盤ということもあり、お互いに気を遣いすぎ、どこかちぐはぐしていた。そのちぐはぐさは歩くペースにも表れ、初日から制限時間内にゴールできない班が2班あった。

ふりかえりでは決意表明で発表した目標や、毎日の目標を達成できたかを考えた。1日をふりかえると、「地図をしっかりと見ながら進まないといけない。」「班の人の意見を聞くようにしないといけない。」と言う意見が子供たちから次々と出始めた。ふりかえりを通して、少しずつ班が一つになっていく様子が見受けられた。







【第2ステージ:信頼関係の構築とチーム作り】

8月20日(火):洲本市五色地区→淡路市富島地区(27km)

8月21日(水):淡路市富島地区→淡路市釜口地区(27km)

第2ステージからはボランティアスタッフの介入を減らし、子供たち自身で話し合いやペース配分を考えるよう促した。第1ステージの反省から、地図の見方や意見の伝え方に工夫が見える一方、班で出た意見をうまくまとめることができず、話し合いに時間がかかってしまう場面もあった。20日、21日ともすべての班がゴールにたどり着くことができなかった。

ふりかえりでは、2日ともゴールにたどり着けなかったこともあり、これまで真剣に取り組めていなかった子供たちもスイッチが入り、話し合いに参加するようになった。どうすれば時間内にゴールできるか?ペースを落とさない工夫は?それぞれ班ごとに出た課題について子供たちで話し合った。







【第3ステージ:前半のふりかえりと目標の再設定】

8月22日(木):淡路市釜口地区→洲本市安平地区(14km)·半日休息日ふりかえり

22日は半日休息日であったため、12時でチャレンジを終了した。午後からは、前半のふりかえりを行った。「自分が班の仲間に伝えたいこと」・「班の仲間の意見を聞くこと」・「完歩に向けて、班の一員として自分は何ができるのか」・

「班がどうなっていきたいのか」を個人で考える時間をもった。その後、班のメンバーとそれぞれの思いを共有した。さらに班のメンバーの意見も踏まえ、「ゴールに向けての決意表明」を行った。

後半は、保護者から預かった手紙を参加者に読んでもらい、自分自身の想い、班の想い、保護者の想いを胸に、ラストチャレンジに向けて士気を高めた。







【第4ステージ:ラストチャレンジ】

8月23日(金):洲本市安乎地区→洲本市相川地区(25km)

8月24日(土): 洲本市相川地区→国立淡路青少年交流の家(22km)

前日のふりかえりで話し合ったように、各班完歩に向けて猛烈な追い上げをみせた。22日終了時点で、各班15km~20kmビハインドであったが、23日の頑張りで10km前後までビハインドを縮めることができた。夜のふりかえりでも「明日絶対にゴールするぞ」という意気込みを感じることができた。

24日は、各班とも約30km残す状況からのスタートとなったが、これまで築き上げてきたチームワークと、「絶対に 完歩する」という強い気持ちで最後まで歩き続けた。途中、苦戦する様子も見受けられたが、ペース配分や休憩、給水等 のタイミングをしっかりと子供たちで考え、全ての班が無事に到達することができた。







【第5ステージ:全体のまとめとこれ

からの目標設定】

8月25日(日):全体のまとめ、宣言文の作成と発表、閉会式

「チャレンジしたことや、がんばったこと」、「自分のことについて、気づいたこと」、「グループのことについて、気づいたこと」、「淡路島一周して感じたこと、学んだこと」、「これから家や学校に戻ってがんばっていきたいこと」についてまとめ、宣言文を作成し、保護者の前で発表した。それぞれが淡路島一周を通して、学んだこと、気づいたことを発表した。







8 参加者の声

- 疲れたけど、なかなかできない経験ができた。
- ・長いと思っていたけど、ゴールしたときの達成感がすごかった。
- ・大変だったけど、その分仲間や友だちが増えた。
- ・みんなで協力すれば、どんなことだってできると学んだ。
- ・これからも淡路島一周で仲間と協力したことを活かして、いろいろなことを頑張りたい。
- 自分のためになった。
- ・歩くだけでなく、自分のことは自分でするなど生活面のことも学んだ。
- ・みんなと笑顔でゴールできたことが一番うれしかった。
- ・歩いているうちに淡路島の自然や人の良さがわかり、歩いてよかった。

9 IKR結果

(教育効果の検証) 分析方法:対応のある t 検定(分析結果の詳細は詳細出力を参照)

「生きる力」の変容(得点範囲:28~168点)

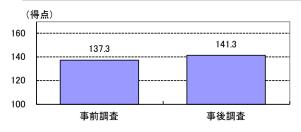


図1. 「生きる力」の平均値の推移

(事前-事後)

- ・事前から事後にかけて 4.0ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかった

「心理的社会的能力」の変容(得点範囲:14~84点)

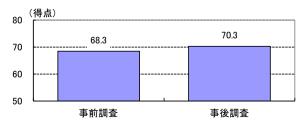


図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

(事前-事後)

- ・事前から事後にかけて 2.0ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかった

「徳育的能力」の変容(得点範囲:8~48点)



図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

(事前-事後)

- ・事前から事後にかけて 0.8ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかった

「身体的能力」の変容(得点範囲:6~36点)

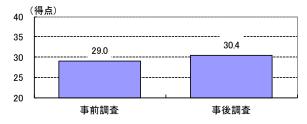


図4. 「身体的能力」の平均値の推移 5

(事前-事後)

- ・事前から事後にかけて 1.4ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

10 成 果

- ・子供たちの日々の様子や最後の宣言文からも当事業の「仲間と協力することを学ぶとともに、人間としてのたくましさを育む」という目的は概ね達成できた。また、それを裏付けるように IKR 調査では、全ての項目で数値の向上は確認された。
- ・最大約20kmのビハインドがあったにも関わらず、参加者全員が無事にゴールすることができ、子供たちが持っている可能性や底力、「絶対に完歩する」という強い気持ちを感じることができる事業となった。
- ・どの班も時間内にゴールできなかった日が続いたことがきっかけとなり、チャレンジやふりかえりで子供たちの気持ちが一つになっていく様子が窺えた。成功体験だけではなく、失敗体験により学ぶこと、気づくことは多いと改めて実 感させられた。
- ・当事業が8年目を迎え認知度も高くなってきたこともあり、多くの地域の方に声をかけていただいた。休憩スペースやトイレも快く貸していただき、淡路島全体で応援してくれるような雰囲気の中で歩くことができた。
- ・今年はテレビ3社、新聞2社に取材をしていただくことができた。取材していただけることで、より多くの方に当施設のこと、当事業のことを知っていただける機会になった。また、子供たちも取材されるという経験を通じて責任感や自信をつけた者もいたようであった。
- ・過去の参加者や過去2回当事業のボランティアを経験した者がボランティアリーダーとして事業に参加した。歩いている参加者の気持ちやコースの特徴、子供の疲労具合などがわかることもあり、子供たちに寄り添いながら上手くサポートしてもらうことができた。また、参加した子供たちからは「今後リーダーで参加したい」という声もあり、参加者からボランティアに繋がる良いきっかけになると感じた。

